

希望の未来へ！あなたと市政のかけ橋に すずらんジャーナル



船橋市議会議員

はしもと 和子

2026年 第82号

市民相談はお気軽に

090-5574-9079

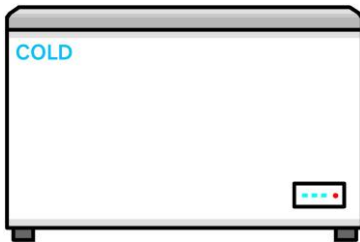
発行 橋本 和子

登下校時も含めた熱中症対策

日本の夏は年々暑さが厳しくなり、今年も早い時期から高温が続く見込みです。こども達の体調が気になる日が増えています。

6月頃から湿度と気温が高くなり、熱中症の危険が例年以上に早く高まっています。昨年の5～9月、熱中症搬送者は全国で10万人を超え、特に6月は過去最多となりました。

初夏は体が暑さに慣れていないため、急な気温上昇で重症化のリスクが高く、こまめな水分補給が欠かせません。



学校では水筒を持参していますが、低学年はランドセルとマイボトルで負担が大きいです。暑い日の水道水はぬるくなり、十分な冷たい水分補給が難しい状況です。

子どもたちが安全に過ごせるよう、学校内に冷たい水を補給できる給水スポットの設置を求めます。

登下校中の熱中症対策も重要です。熱中症搬送の約4割は屋外で発生し、徒歩での移動中や運動前後、帰宅時に多いとされています。子どもは体温調節が未熟で、ランドセルで背中が熱くなることも負担です。

登校時に冷たい背当てパッドやネッククーラーを使っても下校時にはすっかり常温になり、こども達を守りきれません。

こうした課題に対し、冷凍庫の設置など全国で対策が進んでいます。本市でも、設置を求めます。

登下校時を含めた熱中症予防は必要と考えており、適切な水分補給、涼しい服装や帽子の着用等、引き続き呼びかけていくとともに、給水スポット・冷凍庫や冷蔵庫を設置している他自治体の状況を踏まえ、調査研究をする。



福祉タクシー券交付事務における空白期間の改善



先日、あるご家族から切実なご相談がありました。
お母さんが施設で転倒し骨折、手術後の体調悪化もあり、介護度の区分変更を申請。ところが、認定が出るまでの「空白期間」にあたるため、退院直後の大切な通院で、福祉タクシー券を使うことができず、全額自己負担になってしまったのです。

介護保険課の窓口やケアマネジャーは「資格者証があれば使えるはず」と案内していた一方で、高齢者福祉課では「申請中は交付できない」との説明。部署ごとに認識が異なり、最も支援が必要な時期に支援が途切れてしまうという、あってはならない状況が生まれていました。

制度の狭間にいる市民を置き去りにするような運用はやめ、市民一人一人の生活を支える事業ですので、制度を見直しすべきだと思いますが、いかがでしょうか？

要介護認定により、暫定被保険者証が交付されますが、要介護度が確定していない時点で、タクシー券を交付すると、本来は利用できない枚数を、お渡ししてしまう可能性もあり、結果的にご迷惑をかけることになるので、介護保険被保険者証が交付されてから、タクシー券を交付する。



高齢者福祉タクシー事業は、要支援2から要介護5までの認定を受けている人が対象。申請に基づき、市が協定を結んでいるタクシー会社を利用した場合、1回の利用につき、1,200円を上限に運賃の半額を償還払い。



年度途中であっても、区分変更申請は行われますが、その場合も、一旦出されているタクシー券を回収し、新しい認定がおきるまでは、タクシー券が使えないということでしょうか？



区分変更申請の際、既に交付されたタクシー券は回収していない。

タクシー事業者から市に送付されたタクシー券により要件を満たした利用であったか確認をしている。



ご相談された方から、「退院直後の最も困難な時期にある高齢者とその家族を追い詰める結果となっています。船橋市が掲げる【地域包括ケアシステム】の実効性を高めるためにも、本件のような制度の狭間を埋める柔軟な運用改善を強く要望します」と言われました。ご家族の不安と戸惑いは計り知れません。誰のための制度なのか考えていただき、改善していただくことを要望しました。

統合型校務支援システムのクラウド化と校務用スマートフォン

次世代校務DXの方向性の一つとして、校務支援システムのクラウド化が示されました。

2年前に、特別支援教育に関する教育ソフトの導入を求めた時に、今後クラウド化を考えていると言われていましたが、校務支援システムをクラウド化することによって、どのようなメリットがあるのか伺います。



教職員は校務用端末から校務系・学習系システムへの接続が可能となる。

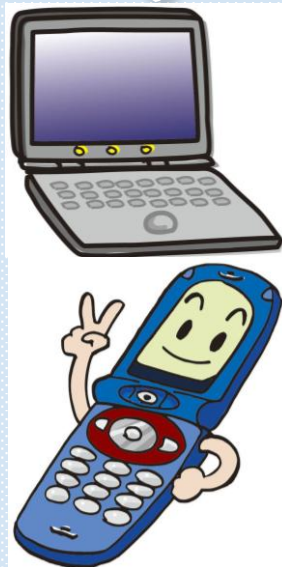
いわゆるゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じることで、職員室に限らず学校内外どこからでも校務支援システムにアクセスできるようになり、柔軟かつ安全な働き方が可能になる。

児童生徒のケガや疾病等で教員が医療機関に付き添う場合、校外学習などの外出時、水泳の授業中などの緊急連絡手段として使用する場合等、各学校にカメラ、メール等の機能がない携帯電話を1台貸与、今年度、1台増やし2台を貸与する。

原則、児童生徒が活動する場所へ、教職員が個人所有のスマホは持ち込まないこととしている。

学校における緊急時の対応や保護者との連絡などは個人所有のスマホを使用しているのでしょうか。

個人所有のスマホを使用していると、子ども達の着替えなど、盗撮が容易にできてしまうため、個人所有のスマホは禁止すべきだと思いますが、いかがでしょうか。



クラウド化により、教職員が学校外でも安全に校務を進められるようになり、働き方の改善にもつながります。

不登校児の健診未受診の課題

不登校児童生徒の増加に伴い、健康診断を受けられない子どもがいる現状が課題となっています。健康診断は、病気の早期発見だけでなく、子どもの心身の変化に気づく大切な機会です。

他自治体では、学校医のクリニックで無料で受診できる制度や、不登校対策計画に健康診断を位置づける取り組みが進んでいます。本市でも、未受診の子どもが確実に健康診断を受けられるよう、費用補助制度の導入を求めますが、いかがでしょうか。



別日に学校内で健康診断を受けられる旨の案内をしたり尿検査であれば、保護者に学校へ持ってきてもらう等の協力を得ながら対応している。

予備日を学校以外の場で設けているケースもあるので、現時点で費用補助の予定はない。

今後も、子どもたちの健康を守るため、確実に受診できる仕組みづくりを求めています。

埋蔵文化財調査研究センター



今年度、工事が完了し、オープンが待ち遠しくワクワクしてきました。今後の予定を伺うと共にオープン後、展示室などわくわくするような企画を考えているのでしょうか。



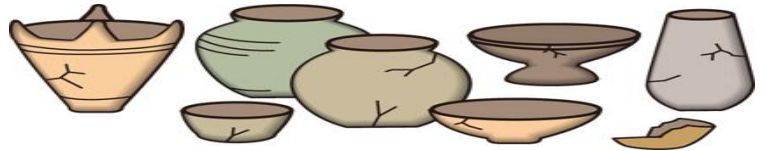
市内小中学校の授業に活用できるように教員向け研修などを実施し、子ども達が本物の土器や石器に触れられる体験を通じて「船橋にはこんなすごい歴史があったんだ!」と実感できる、学びの場にする。

今年度中に分散保管している出土文化財を集約して、令和9年度から本格的に事業を開始する予定。



(旧金杉台中学校にオープン)

最新の調査・研究をいち早く紹介する「速報展」や、国史跡取掛西貝塚の、出土資料の展示など、船橋の歴史や文化の魅力を伝える。



あるコマーシャルではありませんが、「船橋にはこんなにすごい歴史があるじゃん」「あるよ」と。子どもたちと一緒に楽しめる場になることを期待しています。

はしもと 和子 090-5574-9079

ホームページ hashimoto-kazuko.jp

市政に関するご意見・ご要望をお寄せください。

S.35年 長野県軽井沢町生まれ 小諸商業高等学校卒業

八十二銀行入行 S.57年より船橋市在住 H.27年より保護司

